

令和4年度
入学試験問題

第2回

国語

- 1 問題用紙は監督者^{かんとくしゃ}の指示があるまでは開いてはいけません。
- 2 開始のチャイムが鳴ったら、最初に問題用紙と解答用紙に受験番号と氏名を記入して下さい。
- 3 答えはすべて解答用紙に記入して下さい。
- 4 記述で答える問題は、特に指定のない場合、句読点^{くとうてん}や符号^{ふごう}は一字として数えるものとします。
- 5 問題は1ページから17ページまであります。

受験 番号		氏 名	
----------	--	------------	--

森村学園中等部

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

農耕が進んで、たくさんの生産物が確保できるようになると、社会の在り方は、大きく変化してきます。食物の安定が、人間らしさを発現させたように、人間が作る社会も、それによって大きな発展をとげることになるのです。

(中略)

そもそも国家の形成には、さまざまな役割を分担する社会的分業の成立が前提となります。これは宗教も同じで、宗教に専念する人間、国家の政策や実務に従事する人間、あるいはさまざまな技術を駆使できる人間の存在が必要です。そして、この社会的分業を可能とさせるためには、社会的剰余が必要となります。

たとえば、一〇〇人で農業を営む村があったとします。ところが農耕技術などの発展により、生産力が高まって、八〇人で全員のじゅうぶんな食料が得られるようになると、二〇人は食料生産以外の仕事に専念することができます。この二〇人分の食料を社会的剰余といい、この蓄積によって社会的分業が可能となりました。

古くは祭政一致という言葉があるように、祭祀つまり宗教と、政治すなわち国家とは、表裏一体のところがありました。そして農業ではなく祭祀や政治に従事する人物が、それぞれの社会を統率・指導してきました。社会的剰余により、さまざまな専門技術集団を組織することで、社会的分業を編成する国家というシステムが成立をみたのです。

残念ながら狩猟採集社会では、高度な文化や国家を成立せしめる社会的剰余は、なかなか生まれにくいことも確かです。よりプロダクティブな牧畜や遊牧という技術も、豊かな文化を形成しましたが、農耕レベルの高い社会的剰余を期待するには難しいものがあります。農業が最も素晴らしいものだとは思いますが、それが剰余を生みやすいことは事実です。

とくに農業のうちでも、根栽栽培と種子栽培では、後者の方が剰余という点では有利となります。これは保存の問題で、根茎植物には、腐りやすく備蓄が難しいという欠点があります。根栽農業が発達した東南アジアや南アメリカに、国家が出現するのが比較的遅いのは、このためだと考えられます。

これに対して種子農業は、種子のまま何年もの保存が可能ですから、貯蓄に適して社会的剰余を生みやすく、そうした社会には、強力な国家が形成されやすかったのです。

I 種子農業には、水の管理が重要な問題となります。とくにエジプト文明・メソポタミア文明などが、壮大な王宮や王墓を持つのは、灌漑用水の整備により、生産力が高まった証拠です。また同時に、そうした土木工事を指導した王たちの力が、多くの農民に支持・賞賛されたためだ、といっても良いでしょう。

確かに農耕は、素晴らしい文化なのですが、ことはそう単純ではありません。ここで少し農耕の負の側面をみておきましょう。まず第一の問題として、高い社会的剰余を生む農耕が、戦争を引き起こしたという事実があります。この問題については、考古学者の故・佐原真さんが、日本の弥生時代を論じながら、再三、喚起を促してきました。

私なりの要約をすれば、次のようになります。

II 川上にA村、川下にB村があったとします。川下のB村は、しばしば洪水で作物が全滅して食料に困れば、一年目は、なんとか凌げても、二年、三年と続けば、B村にとっては死活問題となります。もし、この時にA村に豊富な食料があった場合、どうなるでしょうか。

初めは交渉でうまくA村から調達できたとしても、やがて死ぬか生きるかで極限に追い詰められると、B村がA村の剰余をねらって襲うことはありえます。こうした苦しい事情のなかで、戦争という行為が起きたとしても、闘いによって富が自由に手に入ることを知れば、エスカレートして戦争が恒常化していきます。

佐原さんは、農耕が貧弱であった縄文時代には、集団的な争いがなく、農耕が本格化した弥生時代に戦争が始まったことを、いくつかの角度から証明しました。まず文献的には、二世紀中頃の『後漢書』東夷伝に、「倭国大いに乱れ」とあり、いくつかの集団が戦争をくり返していた状態にあったことが記されています。

III 専門の考古学の立場から、縄文人の人骨には、武器を用いた集団的殺人の形跡がありませんが、弥生人の骨には、首のないもの、斧などの威力で陥没した頭蓋骨、骨にささった鏃や刀痕が、しばしば見られることを指摘しています。

また弥生の集落には、防禦施設である堀が巡らされたり、吉野ヶ里遺跡のように砦としての構造をもつ遺構が確認されています。さらに世界的に見ても、砦の出現と農耕の開始とが、ほぼ同時期であることなどを指摘しています。なお近年では、弥生の戦争が、こうした自然発生的なものではなく、朝鮮半島からの水田稲作とともに伝わった一つの文化だと考えられています。

いずれにしても、農耕による社会的剰余の成立は、戦争を招く大きな要因となったことにまちがいはありません。農耕が生んだ文明のうちでも、インダスには、巨大な王宮や王墓がなく、戦争の痕跡は薄いのですが、これはインダスにおける農耕の在り方に関係します。

IV インダス水系では、夏季モンスーン後の氾濫源を利用する農耕が主流でしたから農耕地は小規模で、絶えず移動する必要があったと考えられています。それゆえ強力な王が出現せず、戦争も起こりにくかったのでしょうか。かえって貧しいとされる社会に、犯罪は少なく、それは豊かさを知った社会に起こりやすいというのが、歴史の現実なのです。(中略)

ところで農業は、自然破壊を招くケースもあります。農業遺伝学の研究者・佐藤洋一郎さんは、かつてシルクロードは緑にあふれていたが、農業という地力搾取が進むと、塩が地下から吹き出したりして、砂漠化していったという仮説を提示しています。こうした過度の農業による砂漠化が、多くの文明を衰退にもたらした、とすることはまちがいでないと思われれます。

それゆえ現在、二酸化炭素排出ゼロとして注目されるバイオエタノールには、大きな問題があります。⑤ 廃油などの再利用ならばともかく、農作物をエネルギーとするのは、大地から地力を大規模に奪うことを意味します。また、いくら肥料を与えても、土中の微生物をはじめとするさまざまな養分を、調和的に保持することは不可能です。しかも化学的な対応は、地球の循環構造を人為的に変えるだけで、大きなアンバランスを招き、大地の力を衰退させることになります。

またバイオエタノールの問題は、快適な生活環境の維持と、地球温暖化防止という名目のために、経済的富者が、世界中の弱者の食料を奪うことにもつながります。すでに一九七〇年代に、スーザン・ジョージという研究者は、世界中の年産およそ一三億トンの食料および飼料用穀物の半分は、世界人口の四分の一にしかすぎない先進国によって消費されたことを指摘しています。こうした事情は、現在ではもっと進んでいるでしょう。

つまり私たちが肉を食べるために、膨大な穀物類が飼料として投入されているのです。そうした農産物を、飢えに苦しむ人々に回せば、多くの人々が救われることになります。それをさらに自動車などの燃料に回すとすれば、発展途上国における飢餓の問題は、より厳しくなります。農業を世界規模で考えた場合には、実に難しい問題があるのです。

農業は、もともとは自給自足という性格をもっていました。しかし今日、商業や工業さらには情報というシステムも加わって、膨大な社会的分業の体系を、産業社会が創り上げてしまいました。そして現在、そうした産業社会の論理が、まさにグローバリゼーションという形で、世界中に浸透しつつあります。そのあおりをうけて、実は今、農業にしわ寄せが来ています。ラオスなどの焼畑地帯や、中国南部の農村を歩いていると、このことが強く実感されます。ラオスでは、山の斜面で焼畑を行い、谷間の低地帯では水田で、ともにコメを作っています。先にも述べたように、焼畑面積が制限を受けているという問題はありますが、それを除けば、焼畑に加えて、河川や湖沼での漁業と、野菜などの畑作と、小規模なニワトリやブタの飼育とで、人々が食べていくには、何ら問題がありません。

しかし、そこに電気が入り、ラジオやテレビなどの電化製品が必要とされ、さまざまな物資が生活のなかに入りこんでくると、そうした生活は、一気に貧しくなってしまうのです。食べるのには困りませんが、農業は現金収入にはほとんど結びつきません。それゆえグローバリゼーションが進み、物品と貨幣経済が浸透してくると、そうした生活が貧しいものとみなされてしまうのです。

村は大地と結びついて、そこを耕し作物を育てて、長い間、租税などの形で剰余を都市に放出してきました。ところが、村々からの生産物を受け取るだけで、大地とは無関係である都市は、分業体系に基づいた産業社会を築き上げ、豊かで快適な社会を形成させました。こうした新しい都市の論理が、古いままの農耕の村を貧しくさせることになり、現在、そうした現象が、世界的規模で進行していることを認識すべきでしょう。

(原田信男『食べるって何？ 食育の原点』より)

※ 問題作成の都合上、文章の一部を省略したところがあります。

(注)

- * プロダクティブ……………生産力がある。
- * 灌漑……………農地に外部から水を供給すること。
- * 恒常化……………変化がなく、常に一定であるようになった。
- * 『後漢書』東夷伝……………中国が日本について書いた歴史書
- * 倭国……………日本のこと。
- * 鏃……………矢の先端に付け、射当てた時に突き刺さる部分。
- * 刀痕……………刀きずのあと。
- * 防禦施設……………敵からの攻撃を防ぎ、守る施設。
- * 地力……………土地が持つ、作物を育成させることのできる能力。
- * 搾取……………しぼり取ること。
- * バイオエタノール……………サトウキビやトウモロコシ、木材などの原料を発酵・蒸留させて作ったエタノール。燃料として自動車用に多く使用される。

問一

① 「それ」が指す内容として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 社会の在り方が大きく変化すること
- イ たくさんの生産物が確保できること
- ウ 人間らしさが発現すること
- エ 農耕が社会の在り方を変化させること

問二 ——— ②「この社会的分業を可能とさせるためには、社会的剰余が必要となります」とありますが、「社会的剰余」が「社会的分業」

を可能とするのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 効率のよい食糧生産が可能になることで、社会を形成する他の分野に人手を回せるようになるから。
- イ 社会全体で食糧が十分に確保されることで、国の政策や実務により多くの時間をかけることができるから。
- ウ たくさんの食糧の蓄積が可能になることで、飢饉などの危機的状況も乗り越えることができるから。
- エ 様々な役割を分担する技術集団を作ること、一人一人が社会を支えているという自覚が持てるから。

問三

Ⅰ から Ⅳ に入る語の組み合わせとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア Ⅰ つまり Ⅱ Ⅲ あるいは Ⅳ だから
- イ Ⅰ ただ Ⅱ たとえば Ⅲ あるいは Ⅳ つまり
- ウ Ⅰ つまり Ⅱ Ⅲ さらに Ⅳ だから
- エ Ⅰ ただ Ⅱ たとえば Ⅲ さらに Ⅳ つまり

問四

「残念ながら狩猟採集社会では、〜といっても良いでしょう。」という部分を読んだA子さんは、古代社会にはA「狩猟採集社会」、

B「牧畜、遊牧社会」、C「農耕社会」という3つのタイプがあることを知り、それら3つの社会における「社会的剰余」のあり方を調べ、次のような表を作成しました。表を見て、後の問いに答えなさい。

【A子さんが作成した表】

C		B	A	社会形態	食糧生産の手段	社会的剰余の生みやすさ	その理由
農耕社会		牧畜、遊牧社会	狩猟採集社会		野生の動植物を狩ったり、採集したりする。	×	(★)
(2) 農業	(1) 農業	牛や羊、馬などを飼育し、その肉や皮、ミルクなどを取る。			田畑に作物のもととなる種子・苗・球根などを植えて育て、収穫する。	○	(3)
						◎	種子のまま長期保存ができる。

① 「社会形態C」の(1)、(2)に入る語句を本文中から探し、それぞれ漢字二字でぬき出しなさい。

② (3)には(1)農業方法による「社会的剰余の生みやすさ」が「○」とされる理由が入ります。(2)農業の「◎」とのちがいが分かるように理由を答えなさい。

③ (★)には、「狩猟採集社会」の「社会的剰余の生みやすさ」が「×」とされる理由が入ります。その理由を自分で考え、答えなさい。

問五 ———— ③ 「農耕が貧弱であったじょうろく縄文時代には、集団的な争いがなく、農耕が本格化したやよい弥生時代に戦争が始まった」とありますが、

その理由を七十字以上八十字以内で説明しなさい。

問六

——— ④ 「かえって貧しいとされる社会に、犯罪は少なく、それは豊かさを知った社会に起こりやすい」とありますが、このような事実に興味を持ったB子さんが、それを裏付けるような事例を調べました。その事例にあてはまらないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 文明が発達した現代社会では、ネットを使って発信者が匿名で相手を傷つけたり脅迫したりする事件が増えた。

イ 飢饉や天災で没落する村が多かった地方では事件発生率が低く、未だに警察分署がないところもある。

ウ 犯罪発生件数を都道府県別に見ると、東京や大阪などの人が密集した大都市は犯罪も多いことが分かる。

エ 小さな共同体である村社会ではしきたりやおきてがあり、厳しい処罰を恐れておきてに背く者はいない。

問七

⑤「大きな問題」とありますが、筆者が考える「バイオエタノール」の「問題点」を述べたものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 二酸化炭素の排出量を減らす目的で利用されるバイオエタノールだが、廃油などの産業廃棄物を原料にするとその効果は半減してしまうこと

イ 緑あふれていたシルクロードを一気に砂漠化させた事実から分かるように、バイオエタノールの製造が原因で多くの文明が衰退してしまつたこと

ウ 先進国の人々が快適な生活を維持しつつ環境を守るためにバイオエタノールを利用することで、途上国の人々に食糧が行きわたらず、飢えを更に深刻化させていること

エ バイオエタノールの原料に大量の穀物を使用すると、私たちが普段食べている牛や豚を十分に飼育することができなくなつてしまふこと

オ バイオエタノールの生産が結果的に大地の地力を奪うことにつながり、その後はいくら肥料を与えても地球の循環構造のバランスを戻すことはできないこと

問八

⑥「新しい都市の論理が、古いままの農耕の村を貧しくさせる」とありますが、「電化製品」などの「さまざまな物資」が入つてくることが「農耕の村」を貧しくさせるのはなぜですか。その理由を説明したものとして適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自給自足で成り立っていた農業の中に貨幣経済が浸透してくると、現金収入には結び付かない農業の生活は満たされないので、貧しくされるから。

イ 電化製品などに頼らない暮らしをしていた農民たちが一度テレビやラジオのある暮らしを経験してしまつと、もはや文明のない暮らしには耐えられなくなつてしまふから。

ウ 自給自足が基本の農業では自分たちの食糧を自分たちで作ることはできるものの、テレビやラジオを自分たちで作ることはできないから。

エ 外の世界と関わらずに生活してきた農家にとって、新しい農耕機器などを導入している先進国のあり方と比べると、自分たちの暮らしが質素なもののように感じるから。

問九

この文章で述べられている内容として適当なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 国家と宗教は、政策や実務に専念したり、優れた技術を持つたりしている人物が人々から支持されるといふ共通点がある。

イ スーザン・ジョージの研究では、経済的強者が環境保全という名のもとに弱者である途上国の人々をますます苦しめている現状を指摘している。

ウ 食料に困った村が隣村に食糧が保存されているのを知れば、それを奪おうとするのは当然であり、世界のあらゆる場所で戦争は行われていた。

エ 考古学者の佐原真さんは縄文人と弥生人の骨を比べて、後者が前者よりも優れた知能を持ち、文明を発達させたという事実を明らかにした。

オ 比較的農耕技術が発展していたインダス文明で争いが起こりにくかったのは、彼らの農耕様式が氾濫源を利用し、絶えず移動する必要があったからである。

カ 先進国に住む私たちが、自分たちが口にする肉を少しでも発展途上国の人々に分け与えれば、世界中の多くの人が救われるだろう。

②「しいちゃん」は五十一歳^{さい}で、十二歳の「わたし」(「のりえ」)の祖母である。「わたし」はその日学校で、同じクラスの子が「わたし」のことを「お高くとまってる、すましてる」と悪口を言っているのを聞いてしまい、そのことを友だちの「ますみちゃん」と「さっちゃん」に話した。帰宅後、「わたし」は「しいちゃん」の家に行った。それに続く次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ねえ、しいちゃんは人の悪口言ったことってある?」

わたしがたずねると、しいちゃんはあるはつはと笑って、「あるに決まってる」とあつけらかんと言った。私は少なからずショックだった。

「だって、隣のおばあさんの世間話はしつこいし、スーパーの店員は感じ悪いし、鈴木^{すずき}のじいさんはスケベだし」

しいちゃんは、日頃思っていることをわたしにぶちまけた。しいちゃんが話す内容は確かに悪口だったけれど、聞いているわたしが一緒に怒るといふよりも、なんだかクスツと笑ってしまふような類いのものばかりだった。

でもやっぱり、しいちゃんが誰かの悪口を言うなんて、ちよつとショックだった。

「なにその顔? 悪口言ったことのない人なんてほとんどいないんじゃないの。のりえちゃんはないわけ?」

わたしは少し考えて、「ないと思う」と答えた。しいちゃんがおもしろそうに「へえ!」と尻上^{しりあ}がりに言ったあと、タバコ(私が来てから三本目だ)の煙を威勢^{いせい}良く口から吐き出した。

「ふふーん。のりえちゃんは確かに『すかしてる』かもね」

しいちゃんの言葉に、がーんときて、それからカーツと頭に血がのぼったみたいになった。

「なんで? どこが? ねえ、どこがすかしてるの! 教えてよ」

ムキになったわたしに、しいちゃんはあるはつはと笑った。

「だって悪口言ったことないなんてさ。のりえちゃんて、相当すかしてるなーと思ってるさ」

「悪口なんて、言ったことないもん!」

大きな声で言うとき、しいちゃんは、

「そお? だってげんに、今日の昼休みにさっそく言ってるじゃないのさ。のりえちゃんの悪口を言った高野さんの悪口を、ますみちゃんとさっちゃんに言ったんでしょ」

しいちゃんが、ニヤニヤとわたしの顔を見る。

わたしはハツとして、今度は違う意味で顔がまっかになった。

「すかしてるって、そういうこと言うんじゃないの? 自分がしたことがわかってないっていうか、見過ごしてるっていうかさ。すかしてさっさっでそうでしょ? 音を立てずに、臭いだけ残すみたいな」

しいちゃんは自分で言った「すかしっぺ」がツボにはまったらしく、大笑いしている。

しいちゃんが大笑いしている横で、わたしは自分のためにコーヒーをいれた。うさぎの絵のコーヒーカーップ。砂糖も牛乳もたっぷりだからカフェオレなんだけど、コーヒーのほうがかっこいいからそういうことにしておく。わたしはコーヒーを飲みながら、頭を落ち着かせた。

確かにしいちゃんの言う通りだった。わたしは今日、さっちゃんとますみちゃんに、高野さんの悪口を言ったではないか。

わたしはこれまでの十二年間の人生を振り返ってみる。そういうことなら、もつともつといっぱいあったような気がする。もしかしたらわたしって、しょっちゅう誰かの悪口を言っているかもしれない。わたしは（ I ）。

「悪口って伝染すのよね」

しいちゃんがタバコの煙で、わっかを作る。

「誰かが言うのと、今度は言われたほうが悪口言うの。そうやって、どんどん広がっていくのよね。始末悪いたらありやしない。あつ、いいのできた、見て見て」

しいちゃんが指差したわっかは、くつきりしつかり輪になっていて、見る間にどんどん大きくなっていった。わっかはしばらく名残惜しうに空中に漂ったあと、ほんやりと消えていった。

しいちゃんの言う通りだった。悪口は伝染するのだ。わたしがチクらなかつたら、ますみちゃんも高野さんの悪口を言わないで済んだはず。さっちゃんにだって、悲しい思いをさせずに済んだはずだ。

（中略）

「ひとつお話してあげるわ」

しいちゃんはそう前置きして、ゆっくりとしゃべり出した。

『あるところに、Aちゃんという女の子がいました。Aちゃんにはお父さんがいませんでした。Aちゃんはそのことで、クラスの女の子たちにいじめられることがあります。そんなAちゃんを、仲良しの女の子たちはいつも守ってくれました。』

ある日のことです。Aちゃんが忘れ物を取りに学校に戻ったとき、仲良しの女の子たちが自分の噂話をしているのを、Aちゃんは耳にしました。

その内容ときたら、いつも男の子たちが自分をからかって言うことと同じでした。それと、Aちゃんのお母さんはいそがしく若い人な人で、そのことはAちゃんの自慢でしたが、仲良しの友達たちは、お父さんがいないことだけではなく、Aちゃんのお母さんの悪口まで言っていたのです。

Aちゃんはショックを受けました。今まで仲良しだと思っていた友達が陰で自分の悪口を言っていたのです。Aちゃんはとても悲しくなりました。そして頭に來ました』

「それって今日のわたしの話に似てる！ ねえ、それでそれで？ どうなったの？」
続きがうんと気になる。

『でもAちゃんは、そのことを誰にも言いませんでした。自分だけの胸に留めておこうと思いました。なぜなら、口に出して言ったとたんに、あの女の子たちと一緒にになってしまおう、と思ったからです』

「あっ！ 今日さっちゃんが言ったことと同じだ！」

「そうだね、さっちゃんはえらいね。ちゃんとうわかつてるよね。でも、ますみちゃんもえらいわよ。ちゃんと素直にさっちゃんの言うことを聞けるんだからね。」

それに、ますみちゃんが一緒に怒ってくれて、のりえちゃんはうれしかったでしょ？ 友達思いなのよ、ますみちゃんもさっちゃんもね」

「うん」

ますみちゃんとさっちゃんが、わたしの親友でよかったと思った。二人とも大好きだ。

「ねえ、それでそれで？ 早く話の続きして」

しいちゃんはゆっくりとうなずいて、話はじめた。

『けれどAちゃんは、この感情を一人で抱かかえていることはできませんでした。心こころが爆発ばくはつしそうだったからです。そこでAちゃんは考えました。そうだ、この気持ちをノートに書こうと』

「ふうん、ノートにねえ……」

『Aちゃんは悲しい気持ちや頭にきたことを、思うままにノートに書きました。するとどうでしょう。書いたとたんに、悲しみや怒りがすうっとノートに吸収されていきました。』

ノート二枚分に自分の気持ちを書き終えたときには、晴れ晴れとした気分になんまりました。そして、あの女の子たちが少し気の毒に思えてきました。陰で悪口を言うなんて、自分をおとしめるだけなのに、と思ったのです。そしてその気持ちもノートに書きました』

「おとしめる、ってなに？ どういう意味？」

「おとしめるっていうのは、人を見下すってこと。だからこの場合は、悪口を言ったら、自分の価値まで下がってしまうということよ」

「へえ、そうなんだ。うん、それで、その続きは？」

「話はこれでおしまい。Aちゃんはすぐ立派だったということよ。悪口の伝染を止めたんだからね。だけどね、その何年かあとに大失敗してしまうの」

「なあに、大失敗って？」

「その大事なノートを机の棚たなに置きっぱなしにしたまま、お嫁よめさんにいっちゃったのよ」

「えー？ なにそれ」

「だから、そのノートをAちゃんのお母さんに読まれてしまったってわけなの」

「やだー、かわいそうAちゃん。でも勝手に盗み見る、Aちゃんのお母さんも悪いよね」

そう言うらしいちゃんは、はっはーと豪快に笑った。(中略)

夕焼け小焼けのチャイムが鳴った。このあたりの地区の六時の時報だ。すっかり遅くなっちゃった。またお母さんに叱られる。

「そろそろ帰るね」(中略)

わたしは、自分が使ったクローバーのグラスとうさぎのコーヒーカップを洗って、きれいに布巾で拭いて、食器棚に戻した。家ではこんなことしたことないけど、しいちゃんちでは特別の自分なのだ。

帰り際、玄関先でしいちゃんが言った。

「あの子によく伝えておいて。それから『大好きよ』ってね」

わたしは目玉が落ちそうなくらいに目を見開いて、しいちゃんを見た。びっくりだ。しいちゃんがそんなこと言うなんて、前代未聞。わたしはあいまいにうなずいて、しいちゃんちをあとにした。

「ただいまー」

玄関を開けたとたんいい匂いが漂ってくる。急にお腹が減ってきた。台所に直行する。(中略)

「お母さん、あのね。しいちゃんからの伝言。お母さんのこと『大好きよ』だってさ」

お母さんは、さっきのわたしみたいに目を丸くして、それから、んぐつと喉を詰まらせたあと、ゴホゴホと咳き込んだ。

「な、なあに！ なんですって？」

「だから、しいちゃんがお母さんのこと『大好きよ』だって」

「あんら、まあ！」

⑥ お母さんはすつとんきような声を出した。

わたしは、さっきしいちゃんから聞いたお話をお母さんにも話してあげた。お母さんは途中複雑な顔をしていただけ、最後にはなぜかげらげらと笑っていた。

「ちよつと違うところもあるけど、まあいいわ」

笑いながらそう言っつて、さらに声をあげて笑った。笑いすぎて、涙まで流している。

「ねえ、今度おばあちゃんのところに行ったら伝えておいて。『わたしも大好きよ』ってね」

これまた前代未聞だ！ 今度こそ、本当に目玉が落ちそうだ。なにに？ いったいどういうこと？ 驚いているわたしを見て、おかあさんがさらに笑う。

大笑いしているお母さんを見てたら、なんだかわたしまでおかしくなってきた。あはは、と声をあげて、一緒になってたくさん笑った。あつ、大発見！ 悪口も伝染するけど、笑いも伝染するんだ。

「のりえのことも、もちろん大好きよ」

笑いながら、お母さんが言う。

「わたしだって、お母さんのことが大好きだよ」

負けじと言う。

あつ！ またまた大発見！ 「大好き」も伝染するのだ。ああ、そうか。どうせ伝染するなら、悪口よりも、「笑い」や「大好き」のほうがぜんぜんいい！

ふふんと納得したら、明日から学校へ行くのが、とつてもたのしみになってきた。

さすがだね、ありがとう、しいちゃん！ わたしも大好き。

(椰月美智子『未来の手紙』より)

※ 問題作成の都合上、文章の一部を省略したところがあります。

問一 〓 (a) 「あっけらかんと」(9ページ)、(b) 「すつとんきような声」(12ページ)の意味として適当なものを、次から選び、それ

ぞれ記号で答えなさい。

(a) あっけらかんと

ア あっけない感じで イ おもしろがる様子で

ウ 平然としているさまで エ 確信をもっている様子で

(b) すつとんきような声

ア わざとらしく、よそよそしい声 イ 調子はずれで、まのぬけた声

ウ 重々しく、深刻な感じの声 エ 穏やかで、ゆったりした声

問二 ———①「『へえ！』と尻上しりあがりに言った」とありますが、この「へえ！」を音読するとき、どのように読むのがこの場面にふさわし

いと考えられますか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 相手に驚おどろいた様子で、かんだかい声で読む。

イ 相手をばかにするように、はきすてるように短く読む。

ウ 相手を責めるように、疑いの気持ちをこめて読む。

エ 相手の気持ちをうかがうように、語尾ごびを伸ばのばして読む。

問三 ———②「確かに『すかしてる』とありますが、『』をつけて表記することで、どのような効果がありますか。その説明として最

も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 「わたし」にとつて言われていやな言葉であることが強調され、「わたし」に対する「しいちゃん」の鋭すどどい指摘ししてきが印象づけられる効果

イ 「わたし」の悪口を言った友人たちの発言が誇張こちやうされ、実際に友人の使った「すまして」という言葉とは区別していることがわかる効果

ウ 日常使わない古い言葉であることが明示され、「わたし」に反省をうながす「しいちゃん」の意図がそれとなく示される効果

エ この「すかしてる」の言葉には「わたし」をはげます意味がこめられていることが暗示され、特別な言葉であることが強調される効果

問四 ———③「ニヤニヤとわたしの顔を見る」とありますが、このときの「しいちゃん」の気持ちとして最も適当なものを次から選び、

記号で答えなさい。

ア 本当は覚えているはずなのに、悪口を言ったことがないと忘れてふりをして「わたし」に今日の行動を振り返かえらせ、いつまでとぼけていられるか、ためそうとしている気持ち

イ 実際は悪口を言ったことがあるのに、悪口を言ったことがないと思っている「わたし」に今日のできごとを思い出させ、どのように反応するのか、おもしろそうに待ち構えている気持ち

ウ 自分がやられたことだけを不満に思い、自分のしたことを軽く考えている「わたし」に友だちとの会話を一つ一つ確認することで、考えの甘いあま「わたし」をたしなめようとする気持ち

エ 自分では悪口のもりでもなく、友だちにきつい言い方をしたことをわかっていない「わたし」に、友だちのつらさが わかるような人になってほしいと、優しくさとそうとする気持ち

問五 —— A「カーッと頭に血がのぼったみたいになった」、B「今度は違う意味で顔がまっかになった」とありますが、Bの「違う意味で」とは、Aをふまえた表現です。AとBの気持ちはどのように違うのですか。「わたし」がなぜそのような気持ちになったかもふくめて、「Aは……で、Bは……」という形で、六十字以上七十文字以内で説明しなさい。

問六 (I) にあてはまる慣用表現として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。
ア 頭をひねった イ 頭が上がらなかった ウ 頭を冷やした エ 頭を抱えた

問七 ~~~~~X「しばらく」は、次のアからエのどの言葉にかかりますか。記号で答えなさい。
わかかはXしばらく ア 名残惜しそうに イ 空中に ウ 漂ったあと、ぼんやりと エ 消えていった。

問八 —— ④「ちゃんとわかってるよね」とありますが、「さっちゃん」はどういうことをわかっているのですか。その説明として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 心を許せる仲良しの友だちだと思っけていても、陰では自分の悪口を言うことがあること
- イ こっそり人を悪く言うことを面白がって、次から次へと広めてしまうのが人間だということ
- ウ 人の悪口を言うと、陰で悪口を言っている人と同じレベルの人間になってしまうこと
- エ 人の悪口を言わずに、自分の胸にしまっておくと、自然と友だちが増えるものだということ

問九 —— ⑤「心が爆発しそうだった」とありますが、Aちゃんの中でどのような感情が「爆発しそうだった」のですか。本文中から六字でぬき出しなさい。

問十 —— ⑥「わたしは、さつきしいちゃんから聞いたお話をお母さんにも話してあげた」とありますが、「わたし」が話したあとの「お母さん」の心情として適当でないものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分を見守ってくれていた「しいちゃん」の気づかいが、胸にしみている。
- イ 自分が若かったときの苦い思い出がよみがえり、ふと切なさを感じている。
- ウ 自分の過去を娘に話したときの「しいちゃん」の対応を面白く感じている。
- エ 自分の日記の秘密を「しいちゃん」が勘違いしていることをおかしく思っている。

問十一 本文の内容や表現上の特徴として**適当でない**ものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 祖母・母・娘と三世代にわたって学生のころのできごとにまつわる話題が述べられており、三人のそれぞれの視点から、**悩み多き**青春時代の心のひだが**繊細に描か**れている。

イ 「しいちゃん」は「Aちゃんという女の子」の話を「わたし」にすることで、「わたし」を介して「お母さん」に自分の思いを伝えようとしている。

ウ 「わたし」の視点で物語が語られているが、「しいちゃん」の話を聞いた「お母さん」の反応の真意を「わたし」は理解できていない。

エ 平易な会話文や若者がよく使う表現をそのまま表記し、身近に起こりがちな**状況における**「わたし」の心情をわかりやすく**描写**している。

オ 「しいちゃん」の家で、「わたし」が食器の後片付けを自分でしている場面から、「しいちゃん」にはしつけに**厳しい**一面があることが読み取れる。

三

次の①から⑧の——部のカタカナを漢字になおし、⑨から⑫の——部の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

- ① 私鉄エンセンの寺へ出かける。
- ② 庭にジヨソウざいをまく。
- ③ センレンされた美しさがあある。
- ④ キヨウド料理を楽しみに旅をする。
- ⑤ カンシユウのいない競技場。
- ⑥ キシヨウチヨウの天気予報。
- ⑦ これは氷山のイツカクである。
- ⑧ 六月はムシアツい。
- ⑨ 比の値を求めめる。
- ⑩ 磁石を黒板にはる。
- ⑪ 法皇の位につく。
- ⑫ 異物をとりのぞく。